

保育計画成果報告書

法人名等	株式会社PROTECA
施設名	下林ひまわり保育園
報告者（役職）	中村 真奈美（園長）
住所・連絡先	愛知県豊田市下林町2-7 クロッカス宇野1階
	☎ 0565-47-9333
	E-mail shimobayashi@proteca.co.jp

○タイトル（保育計画）

「ままごと」&「のりもの」の世界で羽ばたく想像力！

○主な助成備品

<ままごとセット>

木製キッチン、木製ままごとセット（野菜・果物・パン・ケーキ等）、調理器具セット
ぬいぐるみ、野菜・果物セット、ままごとハウス、パーテーション、食べ物絵本
絵本立て

<のりものセット>

電車、木製レールセット、スロープ玩具セット、乗り物絵本

1. 保育計画策定の目的

下林ひまわり保育園は、平成31年4月に開園した3ヶ月から2歳児を対象とした企業主導型保育園です。保育理念に「夢ある未来を楽しく歩む力を育む」を掲げ、一人ひとりの子どもたちの良さを伸ばし、自分らしい未来を歩むための基礎を育むことを大切に日々保育をしています。

ままごとやのりもの遊びでは、見立てたり、先を考えたり、感じたり、イメージを膨らませるといった「想像する」という力が自然と広がっていきます。

想像力は、その人の人生そのものを豊かに生き生きとしたものにする大切な力だといえます。私たちは、想像する力を養うために必要な乳幼児期の体験を支え、自由に安心して遊びの中から学びとれるものの一つとして、ままごととのりもの遊びを選びました。

想像力を膨らませながら夢ある未来を楽しく歩む力を育んでいって欲しいと願っています。

2. 具体的な実施内容

<ままごと>

子どもたちのイメージが膨らみやすいよう、木製ミニキッチンの配置を工夫しました。壁に付けた状態の時は、家の台所をイメージすることが多いようで、お母さん役になり、食べ物を作って皿に入れ、保育者や友だちにごちそうする姿が多くみられました。

木製ミニキッチンを対面になるよう配置すると、お店屋さんをイメージするのか、「すみません、ジュースください」「はい、どうぞ」といったやりとりが聞かれ、ジュース屋さんやごはん屋さんを楽しむ姿が多くみられました。

私たちは小物類（三角巾、エプロン、人形など）を用意したり、時には異年齢児との交流をもつ機会を増やすなどしてより遊びが広がるよう工夫しました。



<のりもの>

いただいたのりものの絵本をくり返し読みきかせし、電車への親しみがもてるようにしました。当園の近くには名鉄電車が通っていることもあり、駅や踏切の近くまで散歩に出掛け、実際の電車が走る様子を見る機会を設けました。また、段ボール箱を画用紙で装飾して電車を作り、友だちと一緒に電車に乗っているような気分が味わえるようにしました。様々なきっかけや刺激となるものを用意することで、木製レールをつなげ、カラフルで人形や動物が乗った電車を連結させて走らせるなどの遊びへと発展しました。



3. その成果と評価

日々の保育の中で、木製ミニキッチンなどのままごとに関するものや、電車やレールといったのりものに関するものを提供し、子どもたちが遊びやすいように環境を整えることで一人でのままごと遊びから集団によるごっこ遊びへと発展しました。

ままごと遊びでは、大人数で集まっても十分な玩具の量を用意できたおかげで、「私はこれが使いたい」「ぼくはこれとこれを使って作りたい」というそれぞれの思いに応えることができ、集中して遊ぶ様子がみられました。また、量に余裕がある為取り合い等のトラブルも少なく、「これどうぞ」「スプーンかして」「いいよ」等、子ども同士の相手を思いやることのできるやり取りが以前より増えました。

また、のりもの遊びでは、レールをつなげて走らせるという単純な遊びから、電車の位置まで視線を下ろし、運転手になりきって電車を走らせたり、駅やトンネル、川など、見たり体験したものを自然と取り入れて遊び、その中で会話ややりとりを通して人の気持ちを考えたり、感じたりと、社会性の土台づくりがなされていると感じます。

これらは想像力がなくては成り立ちません。ままごとやのりもの遊びを通して育っているものであると思います。

4. 今後の課題と展望

人には生まれながらに五感が備わっていますが、未発達の状態で生まれてきます。周囲からの音や光、初めて触れるものを刺激として育っていきます。五感が培われると、想像力や感性が磨かれていきます。その大切な時期に0歳児の段階から、保育者からのあたたかみやぬくもり、木製ならではのにおいや感触のある玩具による穏やかな刺激をくり返し受けられるよう、安心して触れ、楽しみ、感じるができる機会を今後も増やし、夢ある未来を楽しく歩む力を育んでいきたいと思います。

以上